



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)コープさっぽろ しんことに店	階数	1
建設地	北海道札幌市北区新琴似1条12丁目118番1の内	構造	S造
用途地域	第一種低層住居専用地域、第一種住居地域	平均居住人員	570 人
建物用途	物販店	年間使用時間	4,745 時間/年(想定値)
竣工年	2019年11月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	9,752 m ²	評価の実施日	2019年6月11日
建築面積	3,125 m ²	作成者	菊池 俊一郎
延床面積	2,998 m ²	確認日	
		確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm]= 0.65

2-5 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.1

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>大店立地法必要台数を大幅に上回る駐車台数・駐輪台数を確保し、荷捌き車両の専用通路をすることで周辺渋滞の軽減に努めた。</p>	<p>A 省エネルギー</p> <p>外皮性能の向上に配慮し、外壁の断熱性能を高めた。エントランスに庇を設置する事により日射の影響の低減に努めた。LED照明を採用する事によりエネルギー消費の低減に努めた。</p>
<p>B 省資源等</p> <p>廃棄物の分別スペースを設けることにより、分別の徹底と廃棄物抑制に努めた。省水型機器を使うことで、水資源の低減に配慮した。</p>	<p>C 緑化</p> <p>敷地境界沿い全てに張芝・生垣・植樹を行うことで景観に配慮した。</p>
	<p>D 雪処理</p> <p>屋上に堆積した雪の落雪を緩和するために落雪緩和金物を設置した。広い駐車スペースを活かし、冬季は駐車場の一部を除雪時の一時堆積場とした。</p>

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	-	BELS認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用		LEED認証	-

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016 (ver.1.4)
 (仮称)コープさっぽろ しんことに店

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境								2.6
1 音環境				1.4	0.15		-	1.4
1.1 室内騒音レベル				2.0	0.40		-	
1.2 遮音				1.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能				1.0	1.00		-	
2 界壁遮音性能					-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-	
1.3 吸音				1.0	0.20		-	
2 温熱環境				2.7	0.35		-	2.7
2.1 室温制御				3.3	0.50		-	
1 室温				3.0	0.50		-	
2 外皮性能	省エネ			3.0	0.17		-	
3 ゾーン別制御性			各室の使用用途により温度管理が必要なため、ゾーン別制御を採用している	4.0	0.33		-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20		-	
2.3 空調方式				3.0	0.30		-	
3 光・視環境				3.0	0.25		-	3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.50		-	
1 昼光率					-		-	
2 方位別開口					-		-	
3 昼光利用設備	省エネ			3.0	1.00		-	
3.2 グレア対策					-		-	
1 昼光制御	省エネ				-		-	
2 映り込み対策					-		-	
3.3 照度					-		-	
3.4 照明制御				3.0	0.50		-	
4 空気質環境				2.7	0.25		-	2.7
4.1 発生源対策				3.0	0.50		-	
1 化学汚染物質				3.0	1.00		-	
4.2 換気				2.0	0.30		-	
1 換気量				1.0	0.50		-	
2 自然換気性能					-		-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50		-	
4.3 運用管理				3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50		-	
2 喫煙の制御			平面図より、別途喫煙室を設けている。	5.0	0.50		-	

Q2 サービス性能				0.30	-	-	3.3
1 機能性				4.0	0.40	-	4.0
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	
1	広さ・収納性				-	-	
2	高度情報通信設備対応				-	-	
3	バリアフリー計画		移動等円滑化基準適合している。 札幌市に届出済(2019/05/29(通知19068))	4.0	1.00	-	
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30	-	
1	広さ感・景観 (天井高)		断面図より、売場天井高さH3400としている。	4.0	0.33	-	
2	リフレッシュスペース		平面図より、売り場面積1996.06㎡ イートイン・コミュニティ面積69.13㎡ 69.13/1996.06×100=3.463%	4.0	0.33	-	
3	内装計画			3.0	0.33	-	
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	
1	維持管理に配慮した設計		仕上表より、内壁に防汚性の高い建材等を使い、外壁に高耐久の板金を使い維持管理に配慮した。	4.0	0.50	-	
2	維持管理用機能の確保		平面図より、掃除具入・生ごみ庫・ダンボールスペースを設けている。	5.0	0.50	-	
2 耐用性・信頼性				2.7	0.30	-	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30	-	
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源		2.0	0.20	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源		2.0	0.10	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	維持管理・耐用性を考えて、屋外露出ダクトはステンレス等を使用している	4.0	0.10	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	給水・給湯には、ステンレス銅管又はHVPを使用。 空調には、銅管を使用。	4.0	0.20	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源		2.0	0.20	-	
2.4 信頼性				2.2	0.20	-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	
3	電気設備			3.0	0.20	-	
4	機械・配管支持方法			1.0	0.20	-	
5	通信・情報設備			2.0	0.20	-	

3 対応性・更新性			3.1	0.30	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		断面図より、階高H4985	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		平面図より、壁長さ比率=239.4+0/2998.31=0.0798	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			2.6	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			1.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出	緑化		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化	配置図・断面図より、周辺が住宅街ということもあり、建物高さを従来の店舗よりも低くし、敷地境界沿いに植栽をし周辺環境に配慮した。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	平面図より、店舗内のコミュニティスペースと入口上部に大きな庇をつけることにより周辺住人のアメニティ向上に努めている。	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI _m =0.76	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEI _m] = 0.65 -	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			1.0	0.20	-	-	1.0
集合住宅以外の評価			1.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		1.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマと節水型便器を採用している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減	省資源	主要構造躯体の鉄骨をSS400を採用している。	4.0	0.14	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源		3.0	0.29	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源		1.0	0.29	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	仕上表より、躯体と仕上材が容易に分別出来る建材を使用している。	5.0	0.29	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			2.9	0.20	-	2.9
3.1	有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない建材を使用している	5.0	0.30	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		2.0	0.70	-	
1	消火剤	省資源	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	2.0	0.50	-	
3	冷媒	省資源	2.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.1
1	地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2を70%に抑える事により、地球温暖へ配慮した。	4.2	0.33	4.2
2	地域環境への配慮		2.8	0.33	-	2.8
2.1	大気汚染防止	省資源	3.0	0.25	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	省資源 悪化 軽減	2.0	0.50	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		4.2	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減	省資源	札幌市雨水流出抑制に関する指導要綱の対象敷地であり、必要対策以上の抑制を行っている。	4.0	0.25	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	
3	交通負荷抑制		出入口ごとに右折入庫・出庫を禁止し、大店立地法必要台数を大幅に上回る駐車台数を確保している。	5.0	0.25	-
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	配置・平面図より、生ごみ庫・ダンボールスペースを設け、冬季は駐車場の一部を雪の堆積場所としている。	5.0	0.25	-
3	周辺環境への配慮		2.5	0.33	-	2.5
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	
2	振動		3.0	0.33	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		1.6	0.40	-	
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	
2	砂塵の抑制			-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	
3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	JIS照明基準等の照度を元に照明器具の設計を行い、LEDを採用することで省エネにも努めている。	4.0	0.70	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.3	BEEランク	B ⁺
建物名称	(仮称)コープさっぽろ しんことに店				
建物用途	物販店				
延床面積	2,998.3 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★★	

3. 重点項目のCASBEEスコア	
A 省エネルギー (最高点 23.1 最低点 6.4)	
合計 17.9点 /23.1点	
Q1 温熱環境	スコア 0.4 /0.6 LR1 建物外皮の熱負荷抑制
Q1 光・視環境	スコア 1.5 /2.5 LR1 自然エネルギー利用
	LR1 設備システムの高効率化
	LR1 効率的運用
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.5)	
合計 14.4点 /23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.6 /1.1 LR2 非再生性資源の使用量削減
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 /2.3 LR2 汚染物質含有材料の使用回避
	LR3 地球温暖化への配慮
	LR3 地域環境への配慮
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)	
合計 8.5点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 1.8 /4.5 LR3 地域環境への配慮
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 4.8 /6.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 /2.3
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)	
合計 3.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0 /1.0 LR3 地域環境への配慮
	スコア 2.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数